

寿宝寺

寿宝寺は、704 年に創建されたと考えられています。古くは「山本の大寺」と称され、木津川のそばに位置していました。当時は、七堂観音の備わった大きなお寺でした。しかし度重なる木津川の氾濫により、1732 年に現在の静かな小高い地に移転しました。現在は、以前より小さな寺院になっています。東側は、春には桜、秋には紅葉と訪問客を楽しませてくれる公園があります。昔は、鶴の飛来があったといわれ、また、仲秋の名月の名所でもあったとされています。寿宝寺の本尊として、重要文化財である「千手観音」が祀られています。

歴史

寿宝寺のある地域は、大和（現在の奈良県）から山陰道（現在の本州南西部山陰地方にあたる昔の地域）へ抜ける、旅人が通る道沿いにありました。寿宝寺では、その道を通る旅人に食料を提供したり、援助をしたりしていました。1997 年、寿宝寺では、大造営を行い、206 年ぶりの改築を行いました。

宝物と芸術品

収蔵庫に祀られている本尊「千手観音立像」の他にも、寿宝寺には他の仏像が本堂に安置されています。それは「聖徳太子立像」です。聖徳太子（574－622）は日本の歴史上の摂政、政治家で、仏教の興隆に務めたとされています。聖徳太子という名称は、死後に称賛され贈られました。この像は、鎌倉時代の像と思われ、聖徳太子 16 歳の時に父の病氣平癒を祈願したのを描いた像とされています。十二世紀に造られた、五大明王のうちの 2 つの像も安置されています。「金剛夜叉明王立像」と「降三世明王」です。この明王は、人間界と仏界の間に立つ守護神で、激しい形相と振り上げられた手足で造られています。